



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2012-2013 年度 No. 3 6

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2012-2013 年度 会長 河合耕一、幹事 上田昭二

2012-2013 年度 RI テーマ



「奉仕を通じて 平和を」

(田中作次会長)

例 会 記 録

第 1 6 6 2 回例会

平成 2 5 年 3 月 1 3 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング：我等の生業



3. 会長の時間：先週から、普段はあまり見ない WBC 野球の侍ジャパンの TV 観戦でした。アメリカでの準決勝は月曜朝 8 時半から試合開始、なかなか見られません。本日の予定の板書の字がきれいという話が聞こえて来ましたが、SAA の中島さんの字です。昔から、ガリ版で原紙の升目に鉄筆で几帳面な字を書いておられました。【昔取った杵柄ですね！】

4. 幹事報告：①南砺 RC より、卓話の案内【日時：3 月 19 日(火) 例会 12：30 より。場所：富山銀行福光支店 4F。講師：尼崎西 RC パストガバナー石井良昌氏（世界社会奉仕委員会に著名な人）、明日締切、ビジターフィー1700 円。メイク必要な方、参加を。②3 月 15 日中学の精勤賞授与、庄川は上田幹事、井波は山本委員長が出席。③メイクアップ希望者は、他クラブ例会変更を事務局に確認を。

5. 委員会報告：①出席委員会：本日 19 名中 13 名出席 (68.42%)

6. ニコニコBOX(SAA：本日 1 名 1000 円、その他、米山 2 名 R 財団 1 名)

上田幹事：横山豊介先生、卓話を無理矢理お願いして快く引き受けていただき、有難うございました。早退します。悪しからず。

齋藤会員：3.11、いろいろ考えさせられ、日々働けることに感謝です。本日早退させていただきます。

荒木会員：「大震災から 2 年」まだ多くの方が仮設住宅であつたり、家族が離ればなれになっていたりとのこと。早く復興して、安静な日々がくるように祈るばかりです。

中島会員：今日は井波風が吹いていますが、現在建築中のケアホームの名称を「ホーム風の谷」としました。横山豊介先生、本日の卓話楽しみにしています。



卓話「木彫り・雷鳥の話」 横山豊介会員

横山豊介会員: 先日の卓話が IM の準備で流れてホッとしていましたが、また急に依頼が来て戸惑っています。今月号の「ロータリーの友」3月号の縦書表紙に、愛知県豊田市矢並町の鞍ヶ池公園山麓のこぶしの白い花が載っています。私は、昔このこぶしの木を使って木彫りのお土産用の「雷鳥」を彫った事があります。本日は、この話をします。



立山観光開発社長の佐伯宗義氏（代議士）に依頼を受けて、私の父（横山白汀氏）が観音様を彫った事がありました。その縁で、秘書を3人も抱える佐伯事務所に行った時、佐伯代議士から、「横山のあんちゃん、立山のために、土産を何か、彫ってくれんか」と強腰に言われました。それまで、立山土産にはヒット作がありませんでした。当時、学校出て2-3年のまだ修業中の身ながら、佐伯代議士の意気に感じ、引き受けることにしました。



こぶしの木を、工夫して彫り、体と頭の一部に皮を残し、仕上げで、雷鳥の目だけに皮をのこしました。体の白い所は絵の具で描き、まだらを出すのに点々をいれて仕上げました。立山の道標も工夫の一つで、こ

れも字は手書きです。ハンコも少しありますが、立体のところに工夫して押してあります。包装の紙箱は、山見の末永さん（故人）で作ってもらい、表に「木はり 立山雷鳥」と版画で印刷し、貼りました。初めは100個ということでしたが、そのうち200、300となり、最終的には3000個も納めました。丁度、父との関係で佐伯宗義氏との出会いや、学校出て井波彫刻に入門後3年目で、「松の葉」（三角ノミを使いスキッと仕上げる技術）もようやく彫れるところまでできていたこと、雷鳥を一匹でなく親子でセットにしたデザインが良かったことなどがうまく重なって、立山土産としては、ヒット作となりました。

このような、お土産を作るアイデアは現代に通じるものがあると思います。最近、井波の彫刻の仕事は不景気もあり減ってきており、お寺や宮の仕事はまだ少しあるものの、個人の天神様などは激減しています。しかし、需要と供給のバランスを考え、求める人の気持ちを満足させる作品を考え出せば、井波彫刻もまだまだ捨てたものではありません。

私は本来注文で、その人の事を思って作品作りをします。この「雷鳥」はやり方が違いました。誰のところへ行くかわからない作品を作るのです。しかし、父の観音様の御縁で、佐伯氏から頼まれて、情熱が湧き、一生懸命に仕上げました。当時結婚したての家内は、毎日遅くまで夜なべをするものですから、なんという所に来たのだらうと思ったようでした。随分、懐かしい話をさせてもらいました。

